

# 総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

## 1. 研究課題名

中鼻甲介蜂巢に対する新規術式の研究

## 2. 研究の対象患者

旭中央病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科において、中鼻甲介蜂巢と診断され、中鼻甲介粘膜温存手技を施行された患者さん

### ・選択基準

以下の基準を全て満たす患者を対象とする

- 1) 中鼻甲介蜂巢と診断され、手術加療を受けた患者さん
- 2) 2024年4月から2025年8月までの期間に当院で手術を施行された患者さん
- 3) 年齢および性別は問わない

### ・除外基準

以下のいずれかに抵触する患者は本研究に組み入れないこととする

- 1) 診療録や画像データが不十分で、評価が困難な症例
- 2) 研究責任者が研究対象として不相当と判断した症例

## 3. 研究の対象期間

2024年4月1日～2025年8月31日

## 4. 研究の概要

中鼻甲介蜂巢 (Concha bullosa) は中鼻甲介の含気化により体積が増大する病態であり、鼻閉や中鼻道狭窄、慢性副鼻腔炎の増悪因子となることが知られている。従来、中鼻甲介蜂巢に対する外科的治療としては、クラッシング法や外側板切除術 (lateral laminectomy) が行われてきた。しかし、クラッシング法では嚢胞粘膜が温存されるため再発の可能性がある、外側板切除術では中鼻道側に広範な raw area を形成し、術後癒着や中鼻甲介外側偏位のリスクが指摘されている。当院ではこれらの問題点を踏まえ、中鼻甲介前端的限局切開、嚢胞粘膜の切除、外側骨壁のみの選択的切除および粘膜縫合を特徴とする「中鼻甲介粘膜温存手技」を考案し、臨床に導入してきた。本研究の目的は、当院において本術式を施行した症例の術後経過を後ろ向きに解析し、術後癒着、中鼻甲介形態、再発の有無といった安全性および有効性を検討することである。

## 5. 研究実施予定期間

2026年1月21日～2026年12月31日

## 6. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・年齢、性別
- ・併施手術 (内視鏡下副鼻腔手術、鼻中隔矯正術など)
- ・術後の中鼻甲介偏位の有無
- ・中鼻道および嗅裂の開存性
- ・中鼻甲介形態の温存状況
- ・術後CTにおける中鼻甲介蜂巢含気の有無
- ・再発の有無

## 7. 研究により得られた結果等の研究対象者への説明方針

本研究は既存の日常診療情報を用いる後ろ向き観察研究であることを踏まえ、研究対象者の健康状態等の評価に関する知見が得られた場合でも、研究結果を研究対象者 (又は代諾者) 個々に開示することはありません。

## 8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・ 研究責任者：耳鼻咽喉科・頭頸部外科 関口昌孝

・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)